



発行
静岡東高等学校
新聞部
静岡市葵区川合三丁目24番1号
TEL (054) 261-6636 (代)

DTP試行版
D180号
(HP掲載予定)

祝・卒業

静岡東高 第56期生 おめでとうございます



▶2020年11月27日、シンボルツリーである樺の下で集合写真撮影

2021年3月16日、静岡東高の第56期生が卒業式を迎える。大学入試制度変更に伴う混乱やコロナ禍など、さまざまな困難を乗り越えて、今、若い翼が羽ばたこうとしている。



校長 笠井義明

56期生は、東高史上、最も多難な「高3」を過ぎた学年と言えるでしょう。「共通テスト導入初年度」はまだしも、その実施方針が直前に大きく変更され動揺が広がり、さらにコロナ禍

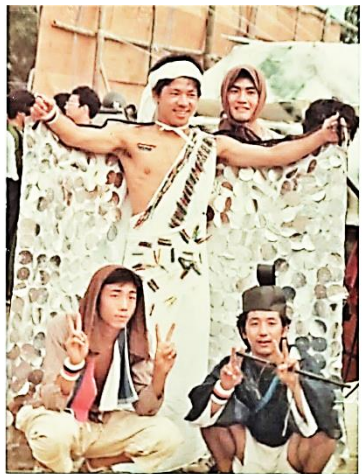
。前代未聞の全国一斉休校、日本の歴史に深く刻まれることは間違いありません。東高では、遠足、球技大会、そして東陵祭などを中止しました。このことは、私としては、「とてもとても残念で、申し訳ない」という思いです。

私は、東高3年の遠足は鎌倉に行きました。3年になって初めて同じクラスになった応援団リーダーのクラスメイトと町を散策する中、お互い学校の先生になりたいと考えていることを知り、志望大学の相談をしたり、尋ねたら恥ずかしいなと思う勉強のことを聞いたりする間柄になりました。お気に入りの女の子を打ち明けたりました。東陵祭では、仮装(今でいう

HRP)の準備中、私も含めたあまりやる気がなかったクラスの団に、HR委員が「おめえら!!」とマジ切れし、彼の熱い思いが、一瞬でクラスを結束させました。仮装をやり遂げた感動を共有することで、クラスメイトとの心の距離がグッと近づいた記憶があります(心の距離が近づいたその時の女子とは、今も一緒に暮らしています)。

同期生の中に、「会話をしたことがない」「名前も知らない」という人がいて当然ですが、東陵祭などが行われていれば、今互いに心の距離を縮めることができた人が、皆さんにはもっと数多くいたのではないかと思ってしまうのです。

56期生の皆さんには、卒業後も同期生同士の心の距離を近づけていく工夫をして欲しいと思っています。史上最も多難な時を過ぎた学年として、結果がじつくりと強まってくことを期待します。いつの日か



▲1978年10月、東陵祭仮装(「仮装」は「HRP」の前身)

卒業おめでとう。東高に入学してすぐに、みんなのゴールは受験ではなく、無事に高校を卒業することだと言った。今、卒業式を迎えることができ、きた者にとっては、当然のようにたどりついたという感覚かもしれない。しかし、何年も教員をやっている自分からすると、無事に卒業するのは本当に難しいことだと感じる。卒業ができるのは、決して当然のことではない。ここに至るまでには、自分の努力はもちろん、多くの人の助けがあったことを忘れないでほしい。そして、卒業の喜び

をかみしめてほしいと思う。さて、受験というものをご自分で考えてみよう。合否をどうこうというのではない。自分は高校生にとって受験は、初めて経験する正解のないチャレンジではないかと思っている。高校受験とは異なり、ほぼ無数にある選択肢の中から進路を決定する。そのために、多くの者はかつてないほどの努力をして臨む。しかし、決定した進路は正解なのだろうか? その答えは今わからない。言い換えれば、今後の自分の人生によって変化していくものなのである。

みんなの今後の人生において、正解のない(わからない)選択をする機会はいくらでもある。その時には、自分の意志で決断をし、その決断に責任を負わなければならない。また、その決断は、自分以外の人たちをも巻き込み、家族や同僚、友人に大きな影響を与えるものであるかもしれない。その時にどのように選択すれば最善だと言えるのだろうか?

残念ながら答えはわからない。様々な方法が提案されているが、結論は出ていない。周囲に流されず、責任ある決断を下せる人間として、様々な経験をし、成長してほしい。56期生のみんなに未来を託す。



学年主任 鈴木茂樹



31 HR 柴田睦

三年生諸君、卒業おめでとう。めでたい門出だが、老婆心ながら、ここで少し苦言を呈しておきたい。

日本では長期安倍政権から菅政権へと代わり、米国ではトランプ政権が終わり、自国中心主義の見直しがなされている。国際協調が唱えられているなか、コロナ禍ではマスク不足となり、輸入に依存することの危険性を痛感させられた。同じ紙で作られているトイレレットペーパーまでも店頭から消え、子供の頃のオイルショック時のトイレットペーパーの買占めの記憶が蘇った。フェイクニュースの拡散が人々の不安をあおった。

もし不足したのがマスクではなく、食料であったらどうなるのであるう？ 発展途上国では今後も人口が増加し、食料や水の争奪戦が頻発するとされる。パリ協定に米国も復帰するというが、地球温暖化はこの問題に拍車をかけるであろう。太平洋戦争時や江戸時代の飢饉などでは多くの餓死者がでた。いざという時、日本を他国は支援してくれるのであろうか？

コロナ禍でオンラインによる授業などが行われ、企業でもテレワークが進んだ。あと20年ほど、シンギュラリティを迎えるとされ、AIが教育や働き方を大きく変えるのであろう。スマホを自由に操る諸君には問題ないのであろうが、私のようなICT音痴は世間から取り残されてしまう。

諸君の輝かしい未来への期待はなむけの言葉を贈る予定であったが、先の見えない世界に対する不安ばかり書いてしまった。社会科教員の悪い癖だと笑って許して欲しい。ただ、東高生には、どんな困難にもしなやかに対応できる能力があり、その能力を存分に発揮して、さらに飛躍することを願っている。



32 HR 伊藤今日子

卒業おめでとうございませう。三年間、みなさんと過ごした日々は忙しくも充実した毎日でした。

16 HR 読書会やデイベート大会で、自分の意見をしっかりと述べる姿に成長を感じました。

22 HR HRP3位、体育大会総合優勝、修学旅行などの行事で普段の学校生活とは違った面を見ることができて、忘れ

られない思い出です。

32 HR 新学期そのそのの休校で、東陵祭は中止、高校総体予選中止とやり抜く機会を奪われ、たまたま受験勉強へと学校生活がシフトしていきました。やりきれない思いを抱えながら、みなさんは本当に頑張りました。

自分の最初の思い(目標・夢)に挫折しそうになったり、安易な道を選ぼうとした時もあったでしょう。また、目標に向かって努力している間に自分の興味関心から新たな思いが生まれたかもしれない。みなさん、それぞれが本当に努力を重ねた日々だったことを私は知っています。今の時点で自分の思いを達成することができなくても、努力を重ねた過程もまた大切で、みなさんは、静岡東高を卒業して新しい世界へ踏みだします。

ここでまた、自分の夢に向かって思いを新たにしましょう。そして、その思いを貫くように頑張ってください。



33 HR 成岡徹

静岡東高の校舎は、川合といふ名の土地の上に建っている。「川合」とは、二つの川の出合ひを意味してをり、すぐ東

側に長尾川、少し離れた西側に流れる巴川が、いまま少し東南に下った古庄の付近で合流してゐる。だから、この学校へ通はうとすると、いづれどれかの橋を渡らなければならぬ。渡河無しでできる唯一の進入路は、北方に横たはる高積山から川合山へと連なる山壁を下って来る山路ばかりである。

一方、川のみならず、道もまたこの地で合流を果たす。西方唐瀬通りを発する竜南一号线(通称竜南通り)は、校地の東南角で南方からやってくる上土長尾線にぶつかって終はる。この通りは、さらに5kmあまり北上した所に架かる橋を渡った先で、今度は竜爪街道と呼ばれる平山草薙停車場線に出会って果てる。

川も道もお互ひを渡ったり跨いだりしながら、さうやって絡み合ひ、出逢ひと別れを繰り返してゆく。かつて学校を發してこの松尾橋を折り返してゐた静岡東高の馬拉ソン大会は、だから、川と道との離合を巡ってゐたことになる。

さうして、出逢ひをその名に冠した土地に集ひ、今その名を後に残して飛び立つてゆく人々がある。土地といふものが永劫のものではないにせよ、今は彼らの新たなこと邂逅に幸の多からんことを祈るばかりである。

良き別れを、そして、良き出逢ひを、と。



34 HR 堀晃丈

日本経団連が実施している高等教育に関するアンケート調査によれば、「企業が学生に求める資質、能力、知識」で『主体性』が1位となっている。したがって、大学生活を社会に出るための準備期間と考えるなら、この『主体性』をいかに磨くかが大切だと言える。

企業の言う主体性とは、自らの課題を発見し、それを解決するために自ら行動することのようだ。つまり、自ら行動するだけでなく、課題を的確に捉える力も必要なのだ。自分の中にある課題を発見するには、内省する力が求められるし、相手が抱える課題を発見するには、深いコミュニケーション能力が求められる。



▲櫻寮の傍らに咲き誇る桜

れる。また、自分が所属する集団や社会の課題を発見するには、多角的で幅広い視野も求められるだろう。このように考えれば、自分を知り、相手を知り、社会を知ることこそが、課題を発見するための第一歩であり、大学で主体性を磨くなら、様々な知識を身に付け、物事の本質を知ることが大切だと言える。

「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」勝負に臨む際の心構えということで、HRや部活動でも紹介した孫子の一節は、主体性を磨くという視点においても的を射ている。今後の生活においては、見聞を広めることで課題を的確に捉える力を養うとともに、自らその解決に向けた行動を起こし、主体性を磨いてほしい。



35 HR 岩田香緒里

ご卒業おめでとうございませう！

今まで何度か卒業生を出してきましたが、今年ほどこの日をのぞんだことはありません。とんでもない一年でしたね。

人間の力ではどうにもならない脅威への対応に、大人たちも悪戦苦闘

しているわけですが、人生の大きな選択を迫られた十代の若者たちにのしかかった物の重さを考えると胸が締め付けられます。間違いなく高三の私だったらパニックになっています。

その少しでも力になれたのかどうかは大いに疑問ですが、君たちの明るさと、前向きな姿勢に本当に助けられました。世の中が暗澹としている中、君たちはトンネルの出口に向かって照らされたサーチライトのようでした。

一つの幕が降りる君を見た時が過ぎる僕は何が出来ただろう消えゆく光のなか

写真のないアルバムに思い出を閉じ込めたい今日までの幸せをこれからもいつまでも

君と歩いた季節が終わる重ね合わせたページ隅に走り書きした文字が薄れゆく

さよなら
過ぎた日々
君が僕にくれたもの
夏の優しい風のように
今、愛をありがとう
また会えると信じてる

～fin.



36 HR 中上明仁

56期生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。

いきなりですが、『置かれた場所で咲きなさい』という言葉、知っていますか？渡辺和子さんの名著のタイトルです。その中の一節を紹介します。

「置かれた場所に不満を持ち、他人の出口で幸せになったり、不幸になったりしては、私は環境の奴隷でしかない。人間と生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせようと決心することができました。」

皆さんの中には、見事、第一志望を勝ち取った人もいれば、本意ではない進路を選択した人もいます。しかし、それぞれが置かれた環境で、花を咲かせなければ、いや、花を咲かす努力をしなければ、その環境に何の意味があるのでしょうか。努力してもなかなか花が咲かないとき、その努力の結晶は次に花が咲くための肥料になります。また、次の花が咲くために根を下へ下へ伸ばしています。自分の置かれた場所が

「土」、その環境の中で努力することが「水やり」、周りで自分を支えてくれる人が「太陽」。どれ一つ欠けてはいけません。環境のせいにはしたり、人のせいにはしたり、辛いことから逃げて好きなことしかしないしていると、「花」は咲きません。花を咲かす作業は生きている限りずっと続きます。

私も母校という環境で、これまでにない大輪の花を咲かせたい。そのための「太陽」こそ、ほかならない皆さんだったのです。

3年間ありがとうございました！

「置かれた場所で、咲き誇れ！」



37 HR 青島征男

不安な顔で一人教壇に立つ教師。その周囲には期待と不安に満ちた表情の四十一人の生徒。三年前の四月二日（月）のオリエンテーションです。みんなは入学式すら終えていない登校日。私は前任校から赴任して初めての登校日。お互い東高について何もわからないもの同士でした。私にいろいろと質問をしてくれる生徒。私もみんなと同じで何も知りません。東高一年生です。東高につい

て知らない人が知らない人に質問。私は虚勢を張らず、しかし、知っている風に話すのに苦心したのを覚えています。皆さんは静岡の進学校である東高を卒業します。つまり、皆さんは静岡県の将来を背負って立



38 HR 成岡正晴

先に生きる者の経験談として3つの話を紹介したいと思います。

1つ目は人生に回り道はないということですが、私は大学4年時、就職活動もろくにせず、教員採用試験の勉強もせずに遊び回っていました。当然採用試験に受かるはずもなく、卒業後に3年間非常勤講師として高校で働きました。教員になると

いう点だけでみると、回り道をしているわけですが、非常勤講師という立場も、中々悪くはなかったと思います。非常勤という立場上、授業時間以外拘束されず、自由に使える時間が多かったため、趣味に使ったり自己研鑽したり、自分の知識や能力が飛躍的に伸びた時期だったと思います。大学は現役で入りましたが教員採用試験は4

つ人財です。これから自分のために、そして静岡県の将来のために自己研鑽に励んでください。皆さんは静岡の進学校である東高を卒業します。つまり、皆さんは静岡県の将来を背負って立

回目であつたので3浪したのと同じようなものですが、講師時代に培った知識や技術、人脈が今に生きていると考えると、回り道でもなかったと思えます。ただ、振り返ってみて初めて思えることであつて、当時はそうは思えませんでした。進学なり就職なり第一志望に合格できず悔しい思いをしている人も、4月からの新生活で何かしら成長できることがあるはずなので、自分の環境で頑張ってみてください。い



▲櫟に誓え！「自分に負けるな」

つかあの経験は大切だったと思える時が来ます。2つ目は長幼の序を大切にしてくださいと言うことです。年功序列なんてもう古いと思われるかもしれませんが、どんな職場でも浮いている人はこれを軽視しがちに見えるからです。教員になって15年になりますが、2回ほど教員人生の危機を感じたことがあります。どちら

でも周囲のサポートがなければ解決できなかったか、大事になつていったか、損得抜きに手を差し伸べてくれる人がいたことは、私の人生で幸運だったと思います。が、そんな人はそうそうその辺に転がってはいません。自分一人では壁にぶち当たり、どうにもならない時に、助けてくれる人がいるかどうかは、今まで自分がどれだけ周囲の人間と良い関係を築

けているかだと思います。私自身、講師時代に先輩教員から非常によくして頂いた思い出があり、未だに付き合いのある先輩もいます。年長者の話には耳を傾けて敬い、年少者の愚痴に付き合い、年少者の愚痴に付き合

3つ目は苦労はみな平等にすることになるという事です。前述したように私は4回目の採用試験で教員になれました。大学受験であまり努力していない分、教員採用試験で苦労しました。皆さんの中にもあまり苦労せずに次の進路が決まった者がいるでしょう。しかしAOや推薦で決まった者は入学後の授業について行けずに苦労したり、私と同じように大学卒業

後に苦労するかもしれません。一足先に就職した者は、就職先の職場環境で苦労するかもしれません。楽しんでその場をやり過ごしても、埋め合わせをする時が必ず来ると言うことです。そして、いざその埋め合わせをする時、もし準備が出来ていないのであれば、さらに問題を先送りにしても良いのかもしれない。しかし、繰り返しになりますが、埋め合わせをするときは必ず来ます。老いてから頑張ろうとしても今までの習慣、経験が邪魔をして中々大変です。出来れば早め

に乗り越えて、残りの人生を労なく過ごしたいですね。ちなみに私は結婚という問題を先送りしたため、現在苦労しています。

最後にこれら3つを踏まえて私の中学時代の恩師の言葉を紹介したいと思います。私が問題児だったせいにか3年間変わらなず担任をしてくれて、当時から何かと気に掛けてくれた先生が、事あるごとに口にしていたフレーズが、No pain, No gain. というものです。私が本

当の意味でこの言葉が身に染み出したのは、新たな一歩を踏み出す皆さんには、今のうちから心に留めて置いて欲しい言葉です。

No pain, No gain. 卒業おめでとう。